

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(237)(HP 収載) —ウィンナ・ワルツの調べにのせて II—

1. 始めに

前報(236)に引き続き、STAGE+のウィンナ・ワルツの調べにのせて II の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のウィンナ・ワルツの調べにのせて II の演奏を選びました。

ウィンナ・ワルツの調べにのせて II: ボスコフスキー&ウィーンフィル
コンサート

ウィーン少年合唱団とともに (1973 年)

収録日: 1973 年 1 月 1 日

ウィーンフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを長らく務め、ニューイヤーコンサートの代名詞的な存在であったヴィリー・ボスコフスキー。本映像では彼の指揮と演奏で、シュトラウス一族やツィーラーなど、ウィーンを代表する作曲家たちのワルツやポルカをお楽しみいただけます。ウィンナ・ワルツの黄金時代を再現したかのような演奏は大きな感動を与えてくれるはずです。「天使の声」とも評されるウィーン少年合唱団の声もご堪能ください。

ソリスト:

ヴィリー・ボスコフスキー (ヴァイオリン)

演奏:

ウィーンフィルハーモニー管弦楽団、ウィーン少年合唱団

カール・ミヒヤエル・ツィーラー ワルツ 《ヘラインシュパツィールト》 op. 518

ヨハン・シュトラウス 2 世 ポルカ・シュネル 《観光列車》 op. 281

ヨーゼフ・シュトラウス ポルカ・シュネル 《おしゃべりなかわいい口》 op. 245

カレル・コムツァーク 2 世 ワルツ 《バーデン娘》 op. 257

ヨハン・シュトラウス 2 世 フランス風ポルカ 《クラップフェンの森で》 op. 336

ヨーゼフ・シュトラウス ワルツ 《うわごと》 op. 212

ヨハン・シュトラウス 2 世 《取り壊しポルカ》 op. 269

ヨハン・シュトラウス 2 世 フランス風ポルカ 《歌い手の喜び》 op. 328

　　ウィーン少年合唱団(合唱)

フランツ・フォン・スッペ 《美しきガラテア》序曲

ヨーゼフ・シュトラウス フランス風ポルカ 《小さな水車》 op. 57

ヨハン・シュトラウス2世 《シャンパン・ポルカ》 op. 211

ヨハン・シュトラウス2世 《皇帝円舞曲》 op. 437



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間とスイッチングハブ→PC 間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

収録は 1973 年 1 月 1 日とあり、前報(236)の続きです。

ボスコフスキーノの弾き振りも同様です。後の編集によるのかも知れませんが、曲に関連するような映像が多数盛り込まれていることも同様で、ややコミカルなシーンや軽妙な踊りもみられます。

音質的には最新の収録に劣るところがありますが、《皇帝円舞曲》など現代の演奏と変わることなく、ウィーンフィルのニューイヤーコンサートの演奏の音です。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX を適用した結果、収録はかなり以前のものですが、ニューイヤーコンサートの雰囲気を伝えてくれています。

以上